

運動体験が子供の成育環境や教育に及ぼす影響

村田 文彦 (競技スポーツ学科 コーチングコース)

指導教員：村田 正夫

キーワード：子供 運動体験 成育環境 スポーツ教育活動

1. 緒言

現代の日本では子どもの体力や運動能力の低下が話題となっており、このところ「体育の日」が来ると、頻繁に同じようなニュースが新聞やテレビをにぎわせている。「子供の体力向上のための総合的な方策について(答申)」(中央教育審議会 2002年9月30日)によると、①体力・運動能力の低下、②身体を操作する能力の低下、③生活習慣病の危険性の高まりなど、懸念すべき状況が報告されている。また、文部科学省が実施している「体力・運動能力調査」では、体力低下だけが問題というわけではなく、生活の乱れによる肥満や糖尿病などの生活習慣病予備軍ともいえる子供たちが増えてきていることも指摘されている。

また近年、娯楽(TVゲーム)の発達により子どもがゲーム脳になってしまい、情動抑制・判断力・思考力が鈍り、学力の低下を引き起こし、社会問題として大きく取り上げられている。このようなことから、現況した社会の中で、子どもたちに伸び伸びと運動させることが重要視されている。

そこで、本研究では子どもが運動を体験することで、学習能力の向上、成育環境の改善、引いては健康の増進へとステップアップしていく為の一助となることを目的とする。

2. 研究方法

本研究は文献検索を行い、運動と子供の成育

環境や教育の観点・関係性について調査する。

3. 結果と考察

運動することは、体力低下の防止、生活習慣病の予防につながり、コーディネーション能力を身に付けることで、より効果的に行うことが出来ると考えられる。そのためには、子どもに運動の「楽しさ」を理解させ、興味・関心を抱かせることが大切である。また、運動を行うことで、「考える力」が身に付き、学習面においても忍耐強くなり、集中力が増してくる。ゆとり教育と呼ばれている今日では、子どもたちの成育環境に運動を取り入れることで、学力向上や豊かな人間性を育むことができるであろう。

4. まとめ

子どもに運動を「遊び」として捉え、コーディネーション能力を身に付けさせることにより、「運動好きな子」が増加し、運動する機会が増えるのである。

運動をより効率的に行える成育環境下に置くことで、運動能力・体力が向上し、意欲・忍耐力・考える力・生きる力を身に付けることができ、教育においても人間関係の構築・人格の形成や学力向上につながる。

5. 参考・引用文献

・佐藤雅弘 「子どもの運動能力を引き出す方法」 講談社 (2004年10月)